

土木学会 地震工学委員会

耐震基準小委員会 第12回委員会 議事録

1. 日 時：平成11年6月8日（金） 14:00～16:00
2. 場 所：司法書士会館
3. 出席者：18名
4. 配付資料：資料12-1 耐震基準小委員会 第11回委員会 議事録（案）

資料12-2 耐震基準小委員会 委員名簿

資料12-3 下水道シールド管渠の耐震対策について

資料12-4 下水道耐震設計指針 ～設計編～ （一部抜粋）

資料12-5 下水道ネットワーク計画

資料12-6 耐震設計のガイドライン 目次（案）

資料12-7 耐震設計のガイドラインの担当者一覧（案）

資料12-8 耐震設計のガイドライン検討資料（3章 荷重）

資料12-9 耐震設計基準類のシンポジウム企画（案）

5. 議事内容：

- (1) 耐震基準小委員会 第11回議事録（案）の確認（資料12-1 参照）

第11回委員会 議事録（案）について説明が行われ、その内容が確認された。

- (2) 話題提供「下水道シールド管渠の耐震対策について」（資料12-3～5 参照）

畑恵氏（神戸市建設局）より、下水道シールド管渠の耐震対策について話題提供が行われた。

1. 下水道の耐震対策の必要性
2. 下水道耐震設計指針（シールド管路編）策定の背景
3. 下水道耐震設計指針（シールド編）の概要

その後、以下に示す内容の議論が行われた。

- ・新しい設計指針で設計すると、可とうセグメントの設置、セグメントの継手板の増厚、弾性ワッシャーなどのコストがアップする。

- ・社会資本整備において、どの程度の防災投資をすべきか（費用便益分析など）、市民にも情報公開し合意を得る必要がある。

- ・セグメントの設計では、弾性域に抑える設計を行っている。

- ・南海地震などでは、地震波の周期が長くなるため、加速度応答スペクトルが小さくても、液状化や地盤の変形が問題となる可能性がある。

(3) 耐震設計のガイドライン（案）について（資料 12-6～8 参照）

1) 10章 社会防災について

- ・ 10章は、章立てせず参考資料として記述してはどうか。
- ・ 震災委員会WG6の成果を紹介していただいてはどうか。
- ・ 10章の執筆担当者は当面、無しとする。

2) 3章 荷重について

- ・ 3章のタイトルは、「地震の影響」とする。（全体系で地震応答解析する場合には、荷重の概念が無くなる。）

- ・構造物に応じて、考慮すべき荷重の種類が異なる。（タンクの屋根：鉛直動、ダム：動水圧など）

- ・地震の影響と組み合わせる自重などについて記述する必要はないのか。津波の影響についても記述するのか。

3) 4 章 材料及び設計用値

- ・ゴムや炭素繊維などについても、記述する必要があるのではないか。
- ・地盤材料の評価などについては、5 章で記述する。
- ・コンクリートの強度は、圧縮だけでなく、せん断についても記述すべきである。
- ・地盤の設計用値は、 G と γ だけではない。
- ・設計において、 V_s が安易に扱われている傾向がある。
- ・地盤の評価にばらつきがあることも記述すべきである。（5 章）

(4) シンポジウム企画（資料 12-9 参照）

- ・名称は、シンポジウムではなく講習会ではないか。（一般からの論文募集は行わない。）

(5) その他

- ・次回、小委員会の予定は以下の通りである。

日時：平成 11 年 8 月 4 日（水）14:00～17:00

以上

記録：沢野嘉延